

## 先導研講演会の案内

炭素繊維の権威である加藤 攻(かとう こう)博士(島根県産業技術センター 技術顧問)の講演会を開催します。教職員・学生皆様のご来聴くださいますようお願い申し上げます。

加藤 攻(かとう こう)博士 講演会  
講演題目:「炭素繊維の製造と特性」  
日時: 2008年3月25日(火) 13:00-17:00

会場:筑紫キャンパス・先導物質化学研究所A棟(南棟)111講義室

### 発表要旨

現在、工業的規模で製造されている炭素繊維のほとんどがポリアクリルニトリル(PAN)とピッチを原料とするものである。PAN系炭素繊維は1961年に発明されたものであるが、2006年には生産能力(24K以下)が世界で24,500トン/年となる。釣り竿、ゴルフシャフト、テニスラケット等のスポーツ用途、大型旅客機の主要構造材やブレーキ材料用途へと利用が広がっている。特にボーイング社のB787は50%(23t)まで使用量が増えた。一方、メソフェーズピッチ系炭素繊維は1969年に製造法が見いだされたものの、2006年の生産能力は950トン/年である。軽く、強く、変形しにくいという特性に加え、メソフェーズピッチ系炭素繊維でなければ発現できない高弾性率、高熱伝導率および低熱膨張係数といった特性を活かし、エレクトロニクス分野の放熱部材や航空・宇宙分野のフレーム、パネル材や人工衛星のアンテナ材料用途として世の注目を集めているものの、現在の市場規模はPAN系炭素繊維の4%程度である。

今回は高性能メソフェーズピッチ系炭素繊維の製造法と特性について述べ、さらにメソフェーズピッチ系炭素繊維の課題に対する取り組みについて紹介する。

\*\*\*\*\*

問い合わせ先:

尹 聖昊 (Seong-Ho Yoon)

Professor

Institute for Materials Chemistry and Engineering

Kyushu University

Address : Kasuga, Fukuoka, Japan

Zip code: 816-8580

Tel: +81-92-583-7959(Office), +81-80-5607-1847(HP)

Fax:+81-92-583-7897

Homepage: <http://www.cm.kyushu-u.ac.jp/carbon/>

\*\*\*\*\*